

平成26年度第4回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会の開催結果について（概要）

第4回近畿中国森林管理局国有林材供給調整検討委員会を開催し、供給調整の必要性等についてのご意見をいただきました。

1 日時及び場所

平成27年2月6日（金）
近畿中国森林管理局4階第3会議室

2 議題

- (1) 今後のシステム販売の実施について
- (2) 近畿中国局管内の需給動向について
- (3) 国有林材供給調整の必要性について
- (4) その他

3 議事概要

《検討結果》

新設住宅着工戸数等住宅建設は、秋需らしさが見られないまま不需要期に入った。材価は、消費増税による駆け込み需要で高騰した後に下落に転じ、現在は、スギは高騰前の水準をやや上回ったところで、ヒノキはやや下回ったところで落ち着いてきていると見られる。
現状では、国有林材の供給調整の必要性は認められないが、引き続き市場動向等を注視していく必要がある。

〈主な情報、意見について〉

○国産材の供給及び価格の動向について

- ・和歌山県では、市場への年間の出材量が近年減少している。
木材価格は増税の駆け込み需要に伴う高騰前に比べ、スギはやや上ぶれ、ヒノキはほぼ同じ水準の価格。
- ・紀州地区では、今年は雪が降らないため順調に出材してくるが、需要は盛り上がらないので、土場は溢れ原木は行き場をなくしている。
- ・中国地区の状況は、スギは商売しやすいが、ヒノキは昨年高騰したことから、マーケットを失って苦戦している。
- ・岡山では1月以降、雪の影響等により出材量は少ないが、柱材は売れず、柱材用の原木価格が上がらない。
羽柄材は売れており、スギの造作材用の原木は需要がある。
- ・バイオマス発電施設の稼働が始まっており、燃料用材の集荷でA材～D材の区分もなく使われることが危惧される。
- ・下級材は、バイオマス燃料や小丸太向け需要が競合しており、底が上がっている。

○原木需要分野（川下）の動向について

- ・岡山のプレカットは1～2月は決算期にあたるため、稼働は下がる見込み。
- ・製材業は原木の手持ちが薄く、先高感もあることから空スペース見られる。
大手ビルダー等は安い材を探し、売り手には値下げを要求している。
来年に持ち越された消費増税までの間、製材業界では持ちこたえられず倒産や廃業に至るものが出てくる懸念がある。
- ・合板価格は下がっており、値上げをアナウンスしたが、東日本のメーカーが価格を下げたため、最悪の事態となっている。
- ・合板原木は購入価格を上げても量が揃わないことから、高くても外材を手当てしている。

○その他

- ・輸出は韓国でヒノキがよく売れ、中国も原木を買って加工し韓国へ出している。
- ・去年の円安ユーロ高は、年が明けて円高に戻り、ユーロの先高感が消えた。